



プロジェクト開始式

内容：

プロジェクト半期評価 2
会とワークショップ

村上専門家による教授 3
法の基礎研修開催

青年海外協力隊員がプ 3
ロジェクトを訪問

プロジェクト関係者および地元の名士が一堂に集まり、プロジェクト開始式をチョンタレス県フィガルパ市で開催しました。保健省本省、チョンタレス保健管区、セラヤ・セントラル保健管区のプロジェクト実施者達のほか、地元市役所、教育省県事務所、警察などの協力者、および高田JICAニカラグア事務所長をはじめとする日本側関係者、総勢60名が参加しました。セラヤ・セントラル保健管区のフェルナンド・カナレス管区長の開会宣言の後、チョンタレス保健管区のサミール・アギラル管区長がプロジェクトの紹介を行いました。日本側代表として

高田宏仁所長がプロジェクトの意義を説明し、保健省代表として本省保健サービス総局のシオマラ・エルナンデス氏がプロジェクトの重要性を説明し、開始が宣言されました。

また、別の日にセラヤ・セントラルのヌエバ・ギネア市で開催された保健プロモーター集会でも、プロジェクトの紹介を行い、200名上の参加者へ活動への参加と協力を要請しました。

これらのイベントは、地元TVやラジオで放送され、広く地元住民へ紹介されました。



来賓席



JICAニカラグア事務所
高田所長



プロジェクト関係者と招待者



母子保健啓発掲示板



ヌエバ・ギネア保健プロモーター
集会で挨拶する中村リーダー

プロジェクト半期評価会とワークショップ

10月29～30日第1回半期評価会+ワークショップを開催（於：SILAISチョンタレス）しました。保健省本省、チョンタレス保健管区、セラヤ・セントラル保健管区、対象14市のプロジェクト実施者が集まり、ベースライン調査などプロジェクトの実施状況および現状の課題を評価し、課題や改善方針について意見交換を行いました。

評価会ではベースライン調査の各施設の母子保健データの収集結果を発表しました。中心課題として挙げたのは、各レベル間での保健データの相違、管理不足およびデータの活用不足でした。

半期評価会に合わせ実施したワークショップでは、産前産後を記録する妊産婦管理台帳活用改善、一次医療から二次医療、二次医療から一次医療への動きをフォローするレファラル・カウンターレファラルの機能改善に関して、参加型グループワー

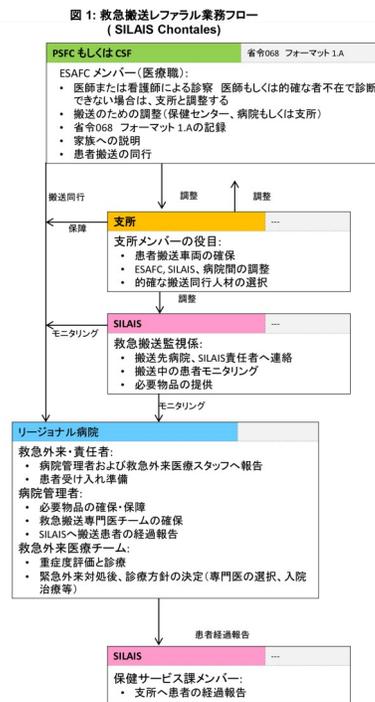
クで実態分析と実践的な活動方針を定める業務フローチャートを作成しました。

妊産婦管理台帳は妊婦の産前健診、分娩情報、産後健診を一目で確認することができ、健診の未実施や妊娠に伴うリスクを管理することができるツールです。ワークショップではケーススタディーに取り組み、情報を分析し、管理者として何を行うべきか、グループディスカッションを行いました。

レファラル・カウンターレファラルの機能改善では、同システムに関する省令を精査し、各保健管区の保健施設の配置に適応した業務フォロー図を作成しました。

保健データ管理と活用、妊産婦管理台帳を用いた状況分析、業務フローチャートに即したレファラル・カウンターレファラルの実施について、向こう3カ月間の活動計画を立

て、保健管区事務所およびプロジェクトは、その計画に沿ってモニタリングおよび必要に応じた指導を行います。



完成したレファレンス・カウンターレファレンス業務フォロー図



半期評価会



グループワーク



レファレンス・カウンターレファレンスワークショップ

公衆衛生・ヘルスプロモーション専門家による教授法の基礎研修開催

プロジェクトでは、2015年9月より研修プログラムを構築するためにチョンタレス保健管区とセラヤ・セントラル保健管区に、それぞれ母子保健技術委員会（ワーキンググループ）を組織し、母子保健担当の石原専門家を中心として活動しています。それぞれのワーキンググループは、各保健管区、病院、保健センター、保健ポストなどから保健管区長が推薦した5人のメンバーで構成されています。

ベースライン調査などで入手した情報から課題となるテーマを抽出し、ワーキンググループで情報

を精査し、強化すべきと判断した内容について研修プログラムを構築します。各研修テーマに関するテキストや研修ガイドを作成し、カスケード方式の研修を開催する計画で、着実に業務を進めています。

10月25日より1か月間の日程で本プロジェクトで活動している、IEC（Information、Education、Communication）の専門家であり、ヘルスプロモーションに精通し、看護師資格も持つ村上専門家による教授法の研修を開催しました。対象者は先に紹介した母子保健技術委員会（ワーキンググルー

プ）のメンバーです。教授法の研修では、教育者は単に必要な情報を受講者に提供するだけでなく、如何に実践で活用できるかを受講者の立場に立った分かり易い手法についてコーチングを行いました。参加者からは「今まで受講した研修で一番分かり易かった」と、大変好評でした。



教授法の基礎研修参加者



村上専門家

青年海外協力隊員がプロジェクトを訪問

当プロジェクトと同様、国際協力機構（JICA）によりニカラグアへ派遣されている、保健分野で活動する青年海外協力隊員4名がプロジェクトを訪問しました。それぞれニカラグア国内の各地で活動しています。指導している分野は、助産師、感染症・エイズ対策、学校保健と多様です。

プロジェクトでは、協力隊員に対して保健省の組織・機能など基本情報を説明し、当プロジェクト活動の目的、活動計画、進捗状況、活動実績などを紹介しました。また、各協力隊員はそれぞれの活動、手法、成果、課題などに関して意見交換を行い、いくつかの事例を紹介しました。

このように同じ国際協力でも指導分野やスキームの違う者たちですが、同じような現場で働いており、互いの活動や課題に対する工夫や活動事例は、大変参考になり、また刺激になります。新しい視点や考えを習得し、今後の活動への展開に結び付けることができます。今後も機会を見つけ、意見交換の場を持つ計画です。



青年会が協力隊ニカラグア医療部会の面々

健康な家族は、集落の幸せ！

Oficina en SILAIS Chontales
Banco BDF, 3c. al sur, Juigalpa, Nicaragua
Telefax : (505) 2512-2906
Correo: proyectosamani@gmail.com

「チョンタレス保健管区およびセラヤセントラル保健管区における母と子どもの健康プロジェクト」は、両保健管区の妊産婦と2歳未満児を対象とした保健医療施設でのサービス提供能力、健康に関するコミュニティ活動、SILAISの行政能力の強化を行うことにより、質の高い保健医療サービスの利用促進を図り、母子の健康リスクを軽減させることを目的としています。

健康な家族は、集落の幸せ！



SAMANIプロジェクト運営委員会メンバー

チョンタレス保健管区事務所に青年海外協力隊員赴任

プロジェクト事務所のあるチョンタレス保健管区事務所に青年海外協力隊員が赴任しました。今回は彼女の抱負を語っていただきました。

私は小学生の時に見たストリートチルドレンの番組に衝撃をうけ、その頃から国際協力に興味を持ち始めました。また赤ちゃん、子どもがだいすきで助産師になり、東京都内の年間2000件近くの分娩を取り扱う病院で4年間働きました。今なら助産師として途上国の人々の手助けができるのではと思い応募し、晴れて青年海外協力隊の一員となることができました。

日本や現地での語学訓練を経て、11月4日にSILAISチョンタレスに着任し、あっという間に1か月が経ちました。まだうまくスペイン語も話せませんが、この1か月、ともに働く医師・看護師らと一緒に、女性や子ども、思春期の若者に関するデータのモニタリングや分析、また会議や研修会の企画・運営をしたり、プロジェクトSAMANIの方々と一緒に管轄する市町村を巡回させていただきました。



中村望美隊員とチョンタレス保健管区の同僚たち

人々、環境、食物、言語すべてが日本と違うこの場所で過ごす日々は、毎日新しい発見の連続で、戸惑いも感じますがとても充実しています。もちろん保健医療システム、周産期医療の現場も日本とは大きく異なります。この2年間で、高い妊産婦死亡率や乳児死亡率の裏にある間接的な問題に対して、同僚や住民とともに草の根レベルで取り組めるような活動を考えていきたいです。